2025年12月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年５月14日

上場会社名　　ナイル株式会社　　上場取引所　東
コード番号　　5618　　ＵＲＬ　https://nyle.co.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）高橋　飛翔
問合せ先責任者　（役職名）取締役　コーポレート本部本部長　（氏名）長澤　斉　　ＴＥＬ　03（6682）9692

配当支払開始予定日　　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2025年12月期第１四半期の連結業績（2025年１月１日～2025年３月31日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期第１四半期	1,510	－	△22	－	△31	－	△30	－
2024年12月期第１四半期	－	－	－	－	－	－	－	－

（注）包括利益　2025年12月期第１四半期　△30百万円（－%）　2024年12月期第１四半期　－百万円（－%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期第１四半期	△3.58	－
2024年12月期第１四半期	－	－

（注）2024年12月期第３四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2024年12月期第１四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年12月期第１四半期	3,202	562	17.1
2024年12月期	2,912	591	19.9

（参考）自己資本　2025年12月期第１四半期　547百万円　2024年12月期　578百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	－	0.00	－	0.00	0.00
2025年12月期	－				
2025年12月期（予想）		0.00	－	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2025年12月期の連結業績予想（2025年１月１日～2025年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,930 ～6,480	8.5 ～18.5	△255 ～50	－	△285 ～25	－	△300 ～10	－	△35.14 ～1.17

（注）１．直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無
２．2025年12月期の連結業績予想については、レンジ形式により開示しております。

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
　　新規　－社　（社名）－、除外　－社　（社名）－

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：有
②　①以外の会計方針の変更	：無
③　会計上の見積りの変更	：無
④　修正再表示	：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年12月期１Ｑ	8,536,800株	2024年12月期	8,536,800株
②　期末自己株式数	2025年12月期１Ｑ	－株	2024年12月期	－株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2025年12月期１Ｑ	8,536,800株	2024年12月期１Ｑ	8,536,267株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期の経営成績の概況 …… 2
（２）当四半期の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 5
四半期連結損益計算書
第１四半期連結累計期間 …… 5
四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間 …… 6
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 7
（会計方針の変更に関する注記） …… 7
（セグメント情報等の注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 7

１．経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。なお、当社グループは、前第１四半期連結累計期間については四半期連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期連結累計期間との比較分析は行っておりません。

（１）当四半期の経営成績の概況

当社グループは「幸せを、後世に。」のミッションの下、社会に根付く事業作りを通じ、時代を超えて人々の幸せに貢献します。また、豊かで幸せな未来を次の世代に紡いでいくため、ビジョンを「日本を変革する矢」とし、絶え間なき自己変革を繰り返しながら、日本を良くするための事業に挑戦し、日本のDX課題を解決する「産業DXカンパニー」として、各種事業を展開しております。

創業以来、当社グループはDX及びマーケティングを中心にインターネットを活用した各種技術、ノウハウを蓄積し、その強みを活用して、「ホリゾンタルDX事業」及び「自動車産業DX事業」を運営しております。今後も様々な領域で画期的な事業を生み出し続ける「事業家集団」として、デジタルマーケティングの知見を駆使した事業作りを続け、社会をより良く変えていくべく、取り組んでまいります。

当第１四半期連結累計期間における日本経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加など、経済活動の正常化が進み、緩やかに回復しています。一方で各国の金融政策を背景とした物価上昇や株価・為替の変動、地政学リスクの高まりによる原材料・エネルギー価格の高騰など、依然として先行きは不透明な状況にあります。

このような環境のなか、ホリゾンタルDX事業においては、売上高の伸長及び費用の最適化により、前年に見られた一時的な落ち込みから回復基調に転じました。自動車産業DX事業においては、既存顧客による月額収益の積み上げが継続し、前期に引き続き増収及び赤字幅の縮小を実現いたしました。全事業を通じて、売上高の伸長及び費用の最適化を進めたことにより、2025年３月には単月黒字を達成いたしました。

その結果、当第１四半期連結累計期間における売上高は1,510,558千円、営業損失は22,223千円、経常損失は31,385千円、親会社株主に帰属する当期純損失は30,559千円となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

①ホリゾンタルDX事業

ホリゾンタルDX事業は、創業以来培ってきたDXやデジタルマーケティングに関する技術・ノウハウを強みにして、顧客企業に対するコンサルティングサービスを主軸にしつつ、生成AIによる業務自動化支援、メディア開発・運営及びデジタル広告に関するソリューション提供を通じた事業支援を行っているDX＆マーケティング事業と、情報メディア「アプリブ」やデジタル広告ソリューション「NYLE TRIDE」の提供を中心としたメディア＆ソリューション事業から構成されています。

当第１四半期連結累計期間において、DX＆マーケティング事業では、既存顧客からの継続的な受注及びアップセルの進展により、売上高が堅調に推移いたしました。メディア＆ソリューション事業においては、メディア内のコンテンツ掲載方法の抜本的な見直しや最適化を推進した結果、利益改善を果たし、前年に見られた一時的な落ち込みから回復基調に転じました。

この結果、当事業の経営成績は、売上高は580,421千円、セグメント利益は170,522千円となりました。

②自動車産業DX事業

自動車産業DX事業は、2018年に立ち上げた事業であり、当社が有するDX及びマーケティングの知見を活かして、自動車産業のDX化を推進しています。主力サービスである「おトクにマイカー 定額カルモくん」では、実店舗を持たず、マイカー利用に関するすべての手続きをオンラインで完結できる仕組みを構築し、個人向けに新車・中古車の利用ニーズに応じた月額定額制のサブスクリプションサービスを提供しています。また、車両本体に加え、車検・税金・メンテナンス費用・自動車保険・故障保証などを含む多様なオプションを月額定額で提供しており、顧客のライフスタイルや予算に応じた柔軟なプラン設計が可能です。

当事業では、従来の購買プロセスをDX化するだけでなく、与信に課題を抱える顧客層を含む、より幅広い利用者層への金融サービス提供にも取り組んでおり、自動車販売市場における顧客接点の拡大と新たな市場の創出を目指しています。

ビジネスモデルとしては、提携する金融事業者と顧客との間のリース契約を当社が仲介し、納車時に初期紹介手数料を収益として計上するほか、契約期間中にはメンテナンス等の付帯サービスを通じて安定的な月額収益を確保しています。広告宣伝費と初期収益のバランスを重視した効率的な広告投資を行いながら、長期契約による継続的な月額収益の積み上げを通じて、短期的な収益確保と中長期的な事業価値の最大化を両立しています。

当第１四半期連結累計期間においては、既存顧客からの月額収益の積み上げに加え、株式会社パティオのM&Aによる効果が寄与し、大幅な増収を実現しております。また、広告宣伝費を中心とした費用の削減が奏功し、前年と比較して利益も大幅に増加いたしました。

この結果、当事業の経営成績は、売上高は930,137千円、セグメント損失は106,344千円となりました。

（２）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第１四半期連結会計期間末における流動資産は2,632,286千円となり、前連結会計年度末に比べ291,704千円増加いたしました。これは主に売掛金及び契約資産が86,704千円、商品が140,326千円増加したことによるものであります。固定資産は570,363千円となり、前連結会計年度末に比べ1,689千円減少いたしました。これは主に有形固定資産が4,941千円増加、無形固定資産が1,534千円減少、投資その他の資産が5,096千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、3,202,649千円となり、前連結会計年度末に比べ290,014千円増加いたしました。

（負債）

当第１四半期連結会計期間末における流動負債は1,173,894千円となり、前連結会計年度末に比べ58,968千円減少いたしました。これは主に短期借入金が125,000千円減少、１年内返済予定の長期借入金が23,409千円増加したことによるものであります。固定負債は1,466,031千円となり、前連結会計年度末に比べ377,278千円増加いたしました。これは主に長期借入金が377,833千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、2,639,925千円となり、前連結会計年度末に比べ318,310千円増加いたしました。

（純資産）

当第１四半期連結会計期間末における純資産合計は562,723千円となり、前連結会計年度末に比べ28,296千円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失を30,559千円計上したことによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年12月期の連結業績予想につきましては、2025年２月14日に公表いたしました業績予想からの変更はありません。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2024年12月31日）	当第１四半期連結会計期間 （2025年３月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,283,072	1,352,133
売掛金及び契約資産	382,541	469,245
商品	377,963	518,290
その他	306,229	303,549
貸倒引当金	△9,225	△10,932
流動資産合計	2,340,582	2,632,286
固定資産		
有形固定資産	114,989	119,930
無形固定資産		
のれん	38,458	36,997
その他	1,043	969
無形固定資産合計	39,501	37,966
投資その他の資産	417,561	412,465
固定資産合計	572,053	570,363
資産合計	2,912,635	3,202,649
負債の部		
流動負債		
買掛金	75,482	77,764
短期借入金	300,000	175,000
１年内返済予定の長期借入金	358,397	381,806
未払法人税等	2,337	1,874
賞与引当金	14,546	12,690
その他	482,099	524,757
流動負債合計	1,232,862	1,173,894
固定負債		
長期借入金	1,068,595	1,446,428
資産除去債務	8,168	8,168
その他	11,989	11,435
固定負債合計	1,088,752	1,466,031
負債合計	2,321,615	2,639,925
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	1,271,747	596,582
利益剰余金	△703,266	△58,661
株主資本合計	578,480	547,921
新株予約権	12,538	14,802
純資産合計	591,019	562,723
負債純資産合計	2,912,635	3,202,649

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第１四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	当第１四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年３月31日）
売上高	1,510,558
売上原価	910,261
売上総利益	600,296
販売費及び一般管理費	622,520
営業損失（△）	△22,223
営業外収益	
受取利息	506
その他	31
営業外収益合計	538
営業外費用	
支払利息	6,616
為替差損	27
支払手数料	3,000
その他	55
営業外費用合計	9,699
経常損失（△）	△31,385
特別利益	
新株予約権戻入益	1,249
特別利益合計	1,249
税金等調整前四半期純損失（△）	△30,136
法人税、住民税及び事業税	691
法人税等調整額	△268
法人税等合計	423
四半期純損失（△）	△30,559
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△30,559

（四半期連結包括利益計算書）

（第１四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	当第１四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年３月31日）
四半期純損失（△）	△30,559
四半期包括利益	△30,559
（内訳）	
親会社株主に係る四半期包括利益	△30,559

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（会計方針の変更に関する注記）

（法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準等の適用）

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号2022年10月28日）、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号2022年10月28日）及び、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号2022年10月28日）を当第１四半期連結会計期間の期首から適用しています。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

当第１四半期連結累計期間（自　2025年１月１日　至　2025年３月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注）１.	四半期連結損益計算書計上額（注）２.
	ホリゾンタルDX事業	自動車産業DX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	580,421	930,137	1,510,558	－	1,510,558
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－
計	580,421	930,137	1,510,558	－	1,510,558
セグメント利益又は損失（△）	170,522	△106,344	64,177	△86,401	△22,223

（注）１.セグメント利益又は損失（△）の調整額△86,401千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２.セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第１四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第１四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	当第１四半期連結累計期間 （自2025年１月１日 至2025年３月31日）
減価償却費	3,188千円
のれんの償却額	1,460